

## ◎仁徳紀

- ・有名な国見を行い民の窮状を救った事で聖帝の名を残した。
- ・后であるイワノヒメは嫉妬心が異常に強く、仁徳が吉備のクロヒメを寵愛していると知って妬み怒る。クロヒメは后を恐れ国元へ船で逃げ帰ったが仁徳はそれでも未練たつぷりにその船に向かい歌を送ったりしたので、后は更に怒りクロヒメに対し船を降りて徒歩で帰るよう命じた。クロヒメの帰国後、仁徳は後に内緒でクロヒメを追って吉備まで出向き暫しの逢瀬を楽しんだ。
- ・ある時、宮中で催す宴の準備に后が木国に出掛けた留守中、仁徳は異母妹のヤタノワキイラツメを寵愛する。帰国の途中それを知った后は怒りを抑えきれず、宴の為に準備した積荷を全て海に投げ捨て、難波の宮には帰らず淀川を遡り山代の韓人の家に留まった。仁徳は苦勞して後の機嫌を取り直し何とか元の鞆に収める。しかしその後も仁徳は未練の歌をイラツメに送っている。仁徳の使者となったクチコと後の従者でクチコの妹であるクチヒメとの逸話も記されている。
- ・異母妹のメドリに想いを寄せた仁徳は弟のハヤブサワケを遣わしてその思いを伝えたが、メドリは後の嫉妬の深さを恐れ、使者として来たハヤブサワケと結ばれる。ハヤブサワケはその事で復命出来なくなった。そうとは知らない仁徳はメドリを訪れようやくその事情を察する。メドリは此の儘では二人の身が危ないと思いハヤブサワケと共に仁徳へ反旗を翻すが逆に討たれてしまう。その戦いの折、未だ身体に温かさが残っているメドリの遺体から腕飾りを盗み自分の妻に贈った将軍を后は処刑している。

## ◎履中紀

- ・仁徳の跡を継いだ長男の履中がその日継の宴の最中、酒に酔い眠りこけてしまう。皇嗣を狙う次男のナカツヒコが宮殿に火を放ったが履中は救い出され難を逃れる。履中は駆けつけてくれた三男のミズハワケに対しナカツヒコの討伐を命ずる。同母の長兄の為に同母の次兄を討つはめになった三兄のミズハワケは次兄の側近を騙して次兄を討たせ、更にその側近を最後には殺す。

## ◎允恭紀

- ・当初身体が弱く即位を拒んでいたが体調回復後即位し、盟神探湯によって氏姓を正した。
- ・允恭の崩御後、太子のキナシカルが即位する手筈だったが、同母妹のカルノオオイラツメとの禁断の間柄が発覚してしまい、そのことを百官は嫌って次兄のアナホに即位を望んだ。状況の悪さを察知したキナシカルはオオマエヲマエノスクネの館に逃げ込むが、スクネは頼ってきたキナシカルをアナホに引き渡す。キナシカルは伊予に流され残されオオイラツメと切ない歌を交歓する。後にオオイラツメは伊予まで追って行きその地で二人とも命を絶つ。

## ◎安康紀

- ・キナシカルを排した安康（アナホ）が皇位に就く。
- ・叔父のオホクサカにワカクサカと云う妹がいた。そのワカクサカを安康は同母弟のオホハツセに娶わせたいと臣下のネノオミを遣わしてオオクサカに申し入れた。オオクサカは快諾しその証として玉飾りを差し出す。しかしネノオミはその玉飾りが欲しくなり横取りしたうえ、ワカクサカが申し出を拒否したと安康に復命する。安康は激怒しオオクサカを攻め滅ぼしその妻を自分の妃にしてしまう。後日、オオクサカとの間に生まれていた7歳のマヨワが父の仇として安康を殺しツブラノオミの館に逃げ込む。ツブラノオミはマヨワを匿いオホハツセと対峙しながらも礼を尽くすが、戦い利あらずマヨワもオミも死を選ぶ。この戦の前、オホハツセは実の兄二人を父である安康の仇を取ろうとしないとの理由で惨殺している。
- ・安康の皇嗣となるべくオホハツセには従兄弟のオシハと云う有力なライバルがおり、計略を用いてオシハを殺す。オシハの遺児オケとヲケはその後馬飼、牛飼いに身を落とす。

